

広島技調じゃけん！通信

2020.9
Vol.41
AUTUMN

令和2年度
第1回

実りある学舎を開催しました！

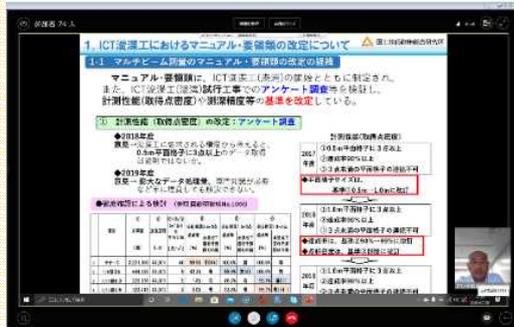
人口減少社会を迎えた今、社会全体の生産性を高め持続的な経済成長を促進するため、国土交通省では2016年を「生産性革命元年」と位置づけるとともに、2025年までに建設現場の生産性を2割向上させることを目指してi-Constructionを推進しています。

港湾の工事や調査においては水面下での作業が多く、不可視箇所や水中作業を伴います。そのため、可視化や水中作業の低減に対するニーズは多いものと考えられ、計画・調査・設計段階から3次元モデル（BIM/CIM）※を導入するなど、ICTを積極的に導入することは今後ますます重要となってくるものと思われます。

本講演では、国土技術政策総合研究所 港湾研究部 港湾施工システム・保全研究室長 櫻井義夫氏、主任研究官の坂田憲治氏、交流研究員の吉野拓之氏を講師にお迎えし、港湾分野におけるICTの導入についてお話しいただきました。



技調内でも会議室と執務室に分かれて進行・聴講しました →



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初のWeb会議での開催となりましたが、聴講者からは「いつもと変わりなく聴講できた」「参加しやすかった」など、今後もWeb会議での開催を望む声が多く上がりました。

← Skype for Businessを用いて開催しました

※BIM/CIM : Building Information Modeling/Construction Information Modeling/Management の略

《日 時》 令和2年7月28日(火) 14:00~16:00

《テーマ》 港湾分野におけるi-Construction

《講師》 国土交通省 国土技術政策総合研究所
港湾研究部 港湾施工システム・保全研究室
室長 櫻井 義夫 氏
主任研究官 坂田 憲治 氏
交流研究員 吉野 拓之 氏

＼リモートでご講演いただきました／



櫻井室長



坂田主任研究官



吉野交流研究員

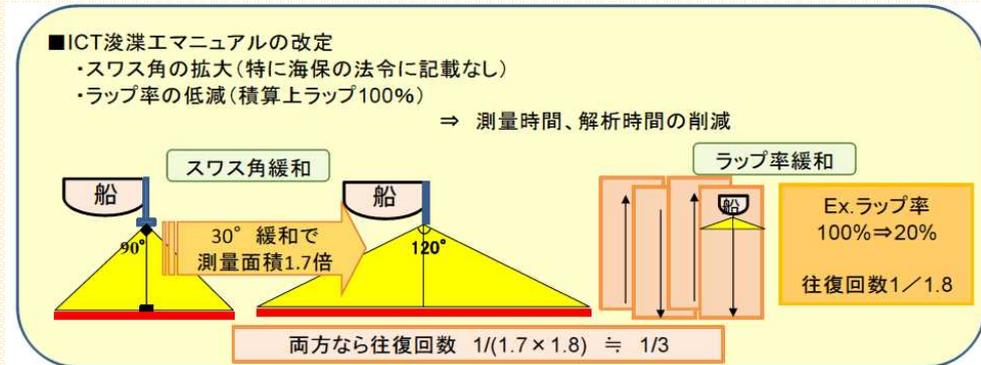
《講義内容》 「港湾分野におけるi-Constructionの動向」（講師：櫻井室長）
「i-Constructionの事例紹介」（講師：坂田主任研究官）
「ICT施工における効率化に向けた検討」（講師：吉野交流研究員）

詳しい講演内容については裏面へ

港湾分野におけるi-Constructionの動向

ICT浚渫工

ICT浚渫工の効率化を目指し、マルチビーム測量に関係するマニュアル・要領類の改善案の提示を目的として、実験工事や実測データ等を用いた検証を実施。



検証の結果は、マルチビームを用いた深淺測量マニュアル(浚渫工編)(令和2年4月改定版)にて改定(スワス角の設定値緩和:スワス角90°→スワス角90°~120°)但し、ラップ率は、100%で変更なし。

今後の取り組み

- ・費用・時間の削減+安全性・品質の向上に向けた、適正基準、提出資料削減に取り組む。
- ・他の工種へのICTの適用も模索。

CIMの目的

設計・施工・維持管理の各段階を跨いで、3次元モデルを情報プラットフォームとして活用することにより、関係者間で必要な情報共有を容易にし、建設生産システム全体の効率化を図る。

